

# JA北海道厚生連キャリア開発ラダー（改訂：令和2年3月版）

- 【看護教育理念】 1. JA北海道厚生連看護理念に基づき、信頼される誠実な看護が提供できる人材を育成する  
 2. 個々のキャリア開発を支援し、組織ニーズにあった教育環境を提供する

| レベル       |          | I   | II   | III  | IV  | V   |
|-----------|----------|---|--|--|---|---|
| レベル定義     |          | 組織の一員として規律を守り、指導や教育のもとで基本的な看護を安全に実践できる  | チームメンバーの役割を果たすことができ自己の学習課題を明確にできる  | 臨床場面において、個別的な看護ができリーダーの役割を担うことができる   | 高度な看護活動が実践でき、指導的役割がとれる  | 看護の専門性を追求すると共に、部署を超えたリーダーシップを発揮できる  |
| 到達目標      |          | 1. 本会の理念を理解し、組織の一員としての自覚を持ち、社会人として、また専門職業人として基本的姿勢と態度で、責任ある行動がとれる<br>(医療倫理・看護倫理・コンプライアンス)<br>2. 基礎的な知識と技術を習得し、指導助言を受けながら 安全で安楽な看護が提供できる   | 1. 看護チームの一員として、自覚と責任ある行動が取れる<br>2. メンバーシップの理解とチームメンバーの役割を果たすことができる<br>3. 受持ち患者に適切な看護が実践できる   | 1. リーダーシップを理解し、チームの目標達成に向けて貢献できる<br>2. 受け持ち看護師として、人間性を尊重した個別的な看護が実践できる<br>3. 患者・家族の意見・希望を組み入れた看護が実践できる<br>4. 新人の指導ができる | 1. 看護実践モデルとしてリーダーシップを発揮し、看護の質向上に貢献できる<br>2. 良質な看護提供のために、他部門との調整や連携に目を向け主体的に多職種と協力し合うことができる<br>3. 在宅などへの継続性、地域医療連携などを視野に入れた看護を実践できる<br>4. 学生・後輩の個々に応じた指導ができる | 1. 看護の専門性を追及した良質な看護が提供できる<br>2. 多職種・他チームとの調整・協働の中心的役割を担いチーム医療を提供できる。<br>3. 問題解決や目標達成に向けてリーダーシップが発揮できる<br>4. あらゆる場面で模範となる行動がとれ、教育的役割を果たすことができる                                 |
| 看護実践能力    |          | 基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する  | 標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する  | ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する   | 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する   | より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する   |
| ニーズをとらえる力 | レベル目標    | 助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる  | ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる  | ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる   | ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる  | ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる   |
|           | 行動目標     | 1. 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的・精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる<br>2. ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる  | 1. 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的・社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる<br>2. 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる  | 1. ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的・スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる<br>2. 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる                             | 1. 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる<br>2. 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる   | 1. 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる<br>2. ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる   |
| ケアする力     | レベル目標    | 助言を得ながら、安全な看護を実践する  | ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する  | ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する  | 様々な技術を選択・応用し看護を実践する   | 最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する  |
|           | 行動目標     | 1. 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる<br>2. 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる<br>3. 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる   | 1. ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる<br>2. ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる<br>3. ケアの受け手の状況に応じた援助ができる                                    | 1. ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる<br>2. ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる<br>3. ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映ができる                | 1. ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる<br>2. 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる  | 1. ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる<br>2. 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる  |
|           | 医療安全の視点※ | 1. 助言を受けながら、事故防止の基本を実践できる<br>2. 災害発生時の初期行動が理解できる<br>3. 暴言・暴力・ハラスメントに気づき報告する   | 1. 事故防止に向けて行動できる<br>2. 災害発生時、初期行動がとれる<br>3. 暴言・暴力・ハラスメントから自分の身を守る方法を理解できる  | 1. 日常の看護提供場面における事故発生リスクに気づき、解決策を立案する<br>2. 暴言・暴力・ハラスメントに対して対応・防止する<br>3. 事故事例を用いて、事故発生の要因を分析し解決策を立案する                  | 1. 実践の場における安全に関するリスクを予測した問題提起とその対応策を提案する<br>2. 暴言・暴力やクレーム等から発生した要因を分析し、対応策を導き出す   | 1. 実践の場における安全管理に関する問題解決に向け、計画的に行動する<br>2. 実践の場における安全に関するリスクについて、多職種間とリスクや対応策の共有を実施する  |
|           | 感染の視点※   | 1. 助言を受けながら、感染予防の基本を遵守する  | 1. 感染予防策の基本を実践できる  | 1. 感染防止マニュアルを理解し、対象に適した方法で実践できる  | 1. 予測的判断をもって、感染管理の視点で部署における課題を検討できる   |   |
| 協働する力     | レベル目標    | 関係者と情報共有ができる  | 看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる  | ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる  | ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる   | ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように多職種の力を引き出し連携に活かす  |
|           | 行動目標     | 1. 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる<br>2. 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる<br>3. 助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる<br>4. ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる<br>5. 連絡・報告・相談ができる | 1. ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる<br>2. 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる<br>3. 看護の展開に必要な関係者を特定できる<br>4. 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる | 1. ケアの受け手の個別的なニーズに対応するためにその関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる<br>2. ケアの受け手とケアについて意見交換できる<br>3. 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる    | 1. ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる<br>2. 多職種間の連携が機能するように調整できる<br>3. 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる                               | 1. 複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる<br>2. 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる<br>3. 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる<br>4. 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる |

| レベル       |        | I   | II  | III  | IV  | V   |
|-----------|--------|---|---|--|---|---|
| 看護実践能力    |        | 基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する  | 標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する   | ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する   | 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する   | より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する   |
| 意思決定を支える力 | レベル目標  | ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る  | ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる  | ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる   | ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる                         | 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる   |
|           | 行動目標   | 1. 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる   | 1. ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる<br>2. 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる | 1. ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる<br>2. ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを理解できる<br>3. ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる       | 1. ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる             | 1. 適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意志決定プロセスを支援できる<br>2. 法的小よび文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる |
|           | 倫理の視点※ | 1. 看護の実践は看護者の倫理綱領や看護業務基準に基づくものであることを理解する<br>2. 日常の看護提供場面において、倫理的に戸惑いを感じた場面について看護者の倫理綱領を用いてその理由を表現する | 1. 日常の看護提供場面における倫理的ジレンマに気づき、カンファレンス等の場で発信できる                              | 1. 倫理的ジレンマから、倫理的問題や課題を明確にして説明する<br>2. 日常の看護提供を振り返り、倫理綱領を用いて自身の役割や責任を関連づけて理解する<br>3. 倫理的ジレンマについて、相談行動がとれる | 1. 倫理的問題や課題の顕在化を図る<br>2. 倫理的問題や課題について検討するアプローチ方法を用いて、チームで検討する | 1. より複雑な状況において、倫理的問題や課題について検討するアプローチ方法を用いて、チームで検討し説明する<br>2. 倫理的問題や課題から、既存の仕組みやルールを見直す提案する          |

※の項目は、評価の視点として運用し、2年程度をめどに見直す

| レベル       |  | I   | II  | III  | IV  | V   |
|-----------|--|---|---|--|---|---|
| 自己開発・研究能力 |  | 1. 常に「なぜ、どうして」と思考できる、習慣を身につける<br>幅広い視野を持ち、看護の質向上のために自己研鑽する  | 1. 主体的に学習に取り組むことができる<br>2. 看護研究発表に参加し、看護研究に関心が持てる   | 1. 自己の課題を明確にし、学習に取り組むことができる<br>2. 看護研究に取り組むことができる  | 1. 日常的に問題意識を持ち、研究的視点で取り組むことができる<br>2. 看護研究に主体的に取り組むことができる<br>3. 自分のキャリアプランを計画し、それに向かい行動化できる   | 1. 自分のキャリア開発に向け、自己研鑽できる<br>2. 研究的取り組みを推進し、結果を実践で応用できる   |
| 役割遂行能力    |  | 1. 専門職業人として組織ルール・礼儀を守ることができる<br>(挨拶・勤務時間・態度・話し方・聞き方・身だしなみ・守秘義務)<br>2. 病院理念・看護部方針、目標が理解でき、部署の目標に沿った行動ができる<br>3. 1日の業務量を考え、行動計画に沿って実践できる<br>4. 社会人として、自分の行動・言動に責任を持つ大切さがわかる | 1. 部署目標と結び付けて自己目標を立案し行動できる<br>2. チームメンバーとしての実践を通して、メンバーシップの理解を深められる<br>3. チーム全体の業務量を把握し、自分の行動計画を修正しながら実践できる<br>4. .コンプライアンスを理解し、自分の行動に責任を持つことができる | 1. 部署目標達成に向けて自分の役割を認識し行動できる<br>2. 部署全体の業務量を把握し、時間内に終了することを意識し協力支援ができる<br>3. リーダーシップを理解し、リーダー、新人指導の役割を担うことができる<br>4. 患者の個別性に合わせた看護過程について後輩や学生に指導できる<br>5. .コンプライアンスに沿った行動がとれる | 1. 部署目標の達成に向けて主体的に行動できる<br>2. 自部署におけるリーダーの役割を引き受け行動できる<br>3. リーダーを実践しながら、更にリーダーシップの理解が深められる<br>4. 後輩・学生の状況、個別性を配慮しながら適切な看護過程について指導できる<br>5. 部署全体の業務量に応じて、時間内に終了するようチーム間調整ができる | 1. 組織目標達成に向けて活動を推進することができる<br>2. リーダーとしての責任を果たしチームをまとめることができる<br>3. 役割を担うスタッフの支援が出来る<br>4. 後輩指導、学生指導の計画実施評価に参画する<br>5. 患者に必要な物品の妥当性、効果などを評価し、工夫・提案できる<br>6. 部署課題を明らかにし業務整理に取り組むことができる<br>7. 上司の補佐ができる |
| 厚生連職員の活動  |  | 1. 厚生連の理念・看護理念を理解する<br>2. 厚生連事業について興味関心を持つ  | 1. 厚生連の医療活動・保健活動・福祉活動について理解を深められる   | 1. 厚生連の事業を理解し保健活動に参加できる  | 1. 組織目標（厚生連）達成に向けて主体的に行動できる<br>2. 院内外における医療・保健・福祉活動に参加できる   | 1. 厚生連の事業推進に向けての取組に積極的に参加できる<br>2. 厚生連の職員として、院内外の人々と良好な関係を保つことができる  |
| 本部研修      |  | ・本部新入職員入会式および研修会<br>・接遇研修   |   | ・5年次研修   | ・主査研修   |   |
| 各病院研修計画   |  | 各病院の研修計画に沿った研修  | 各病院の研修計画に沿った研修  | 各病院の研修計画に沿った研修   | 各病院の研修計画に沿った研修  | 各病院の研修計画に沿った研修  |
| 必須項目      |  | ・新人看護職員研修   | ・看護過程研修及びケーススタディ<br>・メンバーシップ研   | ・事例研究、リーダーシップ研修Ⅰ   | ・看護研究・リーダーシップ研修Ⅱ・チームリーダー研修  |   |

チーム：EX) Aチーム,Bチーム

部署：看護単位

チーム：様々なチーム EX)プロジェクトチーム

| 卒業年度の目安 | 1年目～2年 | 2～4年目 | 4～7年目 | 7～9年目 | 10年目以上 |
|---------|--------|-------|-------|-------|--------|
|---------|--------|-------|-------|-------|--------|